

タバコは歯科の天敵なんです

タバコが体に悪いということは、皆さんご存知ですよね。
でも、タバコが歯の病気を悪化させ、しかも治療の成果にまで悪影響を及ぼすってご存知でしたか？！

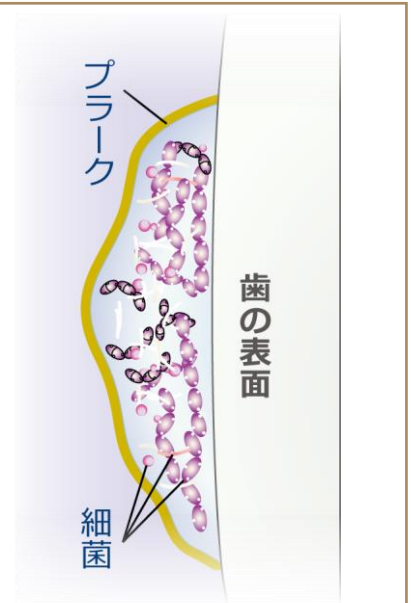


ダメージ

1

プラークがたまりやすくなる

プラークとは排水溝につくヌルヌル汚れと同様の、しつこい細菌の塊のことです。タバコのヤニは、べったりと幾重にも歯に付着し、歯の表面をザラザラにしてしまいます。ザラザラの歯面は、プラークの中にある細菌にとって格好の足場となりはります。これは細菌にとってとても居心地のいい状態。細菌たちは口の中の栄養をたっぷり摂って、さらに増えてしまいます。こうして、歯周病やむし歯が進行しやすい環境が、口の中に用意されることになってしまいます。



ダメージ

2

歯周病が悪化

タバコに含まれる約200種類もの有害物質のせいで、身体の免疫機能が弱るため、細菌をやっつけることができず、病状が非喫煙者より進みやすくなります。そればかりか、壊れた歯ぐきを修復する力が低下するので、治療の効果が上がりにくくなってしまいます。

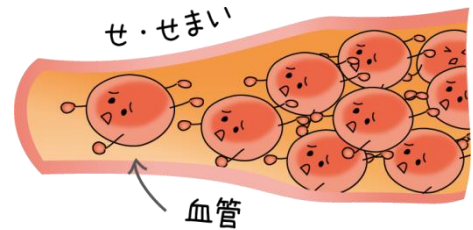


ダメージ
3

傷口がふさがりにくい

ニコチンには血管を収縮させる作用があるため、血流が悪くなり、身体のすみずみに栄養や酸素が届きにくくなります。

また、煙の一酸化炭素も酸素不足を引き起こします。栄養と新鮮な酸素が足りない状態では、傷口を治そうとする細胞が十分に働くことができません。



ダメージ
4

インプラントの治療に不利

喫煙者は骨の再生が弱く、感染しやすいので、せっかく入れたインプラントが定着しにくく、失敗する危険が高くなります。



ダメージ
5

がんのリスクが高くなる

タバコで死亡リスクがもっとも上昇するのが咽頭がん、次いで肺がん、口腔咽頭がんです。いずれもタバコの煙の通り道になる部位です。



お口の健康を保ち、歯科治療を円滑に進めるため、そしてもちろん、全身の健康のためにも、タバコとの付き合いを考え直すきっかけになれば幸いです。



一日8000歩あるくことを今年の目標にしている、
堀之内が担当しました。